

3-4. 報告書作成変更

- ・ 3-1 でログインを行うと、分析結果報告書メニュー画面が表示されます。
- ・ 分析結果報告書メニューには、入力状態とチャート状態が表示されています。

報告書一覧表				
	名称	入力状態	チャート状態	アンケート
<input checked="" type="radio"/>	報告書[1]大気試料(PM2.5抽出液試料) (アニオン成分:イオンクロマトグラフ法)	未入力	無し	
<input type="radio"/>	報告書[2]大気試料(PM2.5抽出液試料) (アニオン成分:イオンクロマトグラフ法以外)	未入力	無し	
<input type="radio"/>	報告書[3]大気試料(PM2.5抽出液試料) (カチオン成分:イオンクロマトグラフ法)	未入力	無し	
<input type="radio"/>	報告書[4]大気試料(PM2.5抽出液試料) (カチオン成分:イオンクロマトグラフ法以外)	未入力	無し	
<input type="radio"/>	報告書[5]大気試料(捕集管吸着物試料)(アルデヒド類)	未入力	無し	
<input type="radio"/>	報告書[6]大気試料(捕集管吸着物試料)(アルデヒド類)	未入力	無し	
<input type="radio"/>	報告書[7]底質試料(フタル酸エステル類)	未入力	無し	
	調査に関するアンケート	入力済		

図 3-4.1 分析結果報告書メニュー画面 報告書一覧

入力状態について

- 「未入力」 : まだ入力が行われていない状態です。
- 「入力中」 : 入力が途中まで行われている状態 (一時保存されている状態) です。
- 「確定」 : 入力が確定した状態 (変更できない状態) です。

チャート状態について

- 「無し」 : チャート類のファイルが送付されていない状態です。
 - 「送付済」 : チャート類のファイルが送付されている状態です。
- チャートの送付については、「3-7. チャート類の送付と確認」を参照して下さい。

- ・ 分析結果報告書メニューから入力しようとする「分析結果報告書」を選択し、「報告書作成変更」をクリックすると別画面にて「報告書作成変更画面」が表示されます。

分析結果報告書[1] 1/4

1.1 大気試料 (PM2.5抽出液試料)
(アニオン成分:イオンクロマトグラフ法)

イオンクロマトグラフ法で分析した場合、この分析結果報告書[1]に記入する。
吸光光度法等のイオンクロマトグラフ法以外では、分析結果報告書[2]に記入する。

電話番号	<input type="text"/>
分析担当者名	<input type="text"/>
分析担当者の経験年数	<input type="text"/> 年
分析担当者の実績 (年間の分析試料数)	<input type="text"/>
分析(主)担当者以外の分析結果の確認	-未選択-

<分析結果>

項目	分析の実施 注1)	回数	分析結果(μg/m3) 注1)	
			検出下限値以上 注2)	検出下限値未満での検出下限値 注3)
塩化物イオン	-未選択-	1回目	<input type="text"/>	<input type="text"/>
		2回目	<input type="text"/>	<input type="text"/>
		3回目	<input type="text"/>	<input type="text"/>
硝酸イオン	-未選択-	1回目	<input type="text"/>	<input type="text"/>
		2回目	<input type="text"/>	<input type="text"/>
		3回目	<input type="text"/>	<input type="text"/>
硫酸イオン	-未選択-	1回目	<input type="text"/>	<input type="text"/>
		2回目	<input type="text"/>	<input type="text"/>
		3回目	<input type="text"/>	<input type="text"/>

- 注1) 大気1m³に相当するフィルターに水1.5mlの割合で添加して調製した抽出液試料とし、分析結果は大気中の各イオンの濃度(μg/m³)として記入する。
記入にあたっては、記入間隔しや単位間隔し1等がないように注意する。
分析を実施した場合、「分析結果」(「検出下限値以上」又は「検出下限値未満での検出下限値」)を記入する。
- 注2) 検出下限値以上であった場合、分析結果を有効数字3桁で記入する。
- 注3) 検出下限値未満であった場合、検出下限値を有効数字1桁で記入する。

<分析方法等>
「塩化物イオン」

分析開始月日	<input type="text"/> 月 <input type="text"/> 日
分析終了月日	<input type="text"/> 月 <input type="text"/> 日
分析方法	-未選択-
使用した水	-未選択- <input type="text"/> その他(<input type="text"/>)

図 3-4.2 分析結果報告書作成変更画面

- ・入力方法は、「2. 記入方法」に従って下さい。また、各分析結果報告書の共通事項を記します。

表 3-4.1 各分析結果報告書の共通事項

分析主担当者	全角入力。実際にその項目の分析を手がけた人の氏名（複数で分析を行った場合は主として実施した人の氏名）とする。
分析主担当者の経験年数	数値（半角）入力。該当項目の記入時点での分析業務経験年数を整数（四捨五入による）で記入する。
分析主担当者の実績 （年間の分析試料数）	数値（半角）入力。分析主担当者が昨年度1年間に分析を行った環境試料の該当項目のおよその試料数を記入する。
分析（主）担当者以外の分析結果の 確認	分析結果報告書の作成にあたって、分析（主）担当者以外の分析結果確認の有無を記入する。

- ・各分析結果報告書の入力項目の詳細は、「4. 各報告書の詳細」を参照して下さい。

・操作ボタンについて

「一時保存」：現在入力中のページを一時保存します。

「前ページ」：前ページがある場合、現在入力中のページを一時保存し、前ページに移動します。

「次ページ」：次ページがある場合、現在入力中のページを一時保存し、次ページへ移動します。

「ダイレクトジャンプ」：現在入力中のページを一時保存し、指定したページ番号に移動します。

上記の操作を行うと、操作ボタンの下のメッセージエリアにアナウンスが表示されます。

・入力操作が終わりましたら、一時保存を行った後に、ブラウザ右上の「×：閉じる」ボタンをクリックし入力画面を閉じます。



図 3-4.3 分析結果報告書作成変更画面 閉じる

・分析結果報告書メニュー画面の報告書一覧の入力状態が「入力中」と表示されます。

※ 入力の途中であったり、後で追加記入や修正を行う場合には、「一時保存」をすることができます。「一時保存」することによりデータベースに入力データが保存され、次回入力画面を開いた時には自動的にそのデータが読み込まれます。これにより、複数日にわたっての記入が可能です。「前ページ」「次ページ」「ダイレクトジャンプ」ボタンでページを移動するときには入力したデータが自動的に一時保存されますが、入力画面を閉じる際やコンピュータをシャットダウンする際などには自動的に一時保存はされません。また、入力画面を開いたまま、一時保存、前ページ、次ページ、ダイレクトジャンプ、ユーザ情報変更、パスワード変更など、サーバからデータを読み込むあるいは書き込む操作をせず 24 時間経過しますとサーバとの接続が切断され、自動的にログアウトされます。一時保存は入力中いつでも行えますので、ある程度データを入力なさった段階で、一時保存を行うようにして下さい。

※ 提出期限を過ぎると入力できなくなります。

※ 参加者専用ページへのログインは、1つの分析機関に対して複数人のログインが可能です。その際は一番最後に保存した人のデータが優先されて保存されますので注意して下さい。(例えば、〇〇〇機関に対して、3台の PC で A さん、B さん、C さんの 3 人の方が同じ時間帯にログインして報告書の入力作業が行えます。A さん、B さん、C さんの順番で保存処理を行った場合は C さんの入力内容が優先されて保存されます。)

3-5. 報告書確認表示

・3-1でログインを行うと、分析結果報告書メニュー画面が表示されます。(図 3-4.1 参照して下さい。)

・分析結果報告書メニューから表示しようとする「分析結果報告書」を選択し、「報告書確認表示」をクリックすると別画面にて「報告書確認表示画面」が表示されます。

分析結果報告書[1] 1/4

1.1 大気試料(PM2.5抽出液試料)
(アニオン成分:イオンクロマトグラフ法)

イオンクロマトグラフ法で分析した場合、この分析結果報告書(1)に記入する。
吸光光度法等のイオンクロマトグラフ法以外では、分析結果報告書(2)に記入する。

電話番号	
分析主担当者名	
分析主担当者の経験年数	()年
分析主担当者の実績 (年間の分析試料数)	
分析(注)担当者以外の分析結果の確認	

<分析結果>

項目	分析の実施 注1)	回数	分析結果($\mu\text{g}/\text{m}^3$) 注1)	
			検出下限値以上 注2)	検出下限値未満での 検出下限値 注3)
塩化物イオン		1回目		
		2回目		
		3回目		
硝酸イオン		1回目		
		2回目		
		3回目		
硫酸イオン		1回目		
		2回目		
		3回目		

注1) 大気1m³に相当するフィルターに水15mLの割合で添加して調製した抽出液試料とし、分析結果は大気中の各イオンの濃度($\mu\text{g}/\text{m}^3$)として記入する。
記入にあたっては、記入間違いや単位間違い等がないように注意する。
分析を実施した場合、「分析結果」(「検出下限値以上」又は「検出下限値未満での検出下限値」)を記入する。

注2) 検出下限値以上であった場合、分析結果を有効数字3桁で記入する。

注3) 検出下限値未満であった場合、検出下限値を有効数字1桁で記入する。

<分析方法等>

「塩化物イオン」

分析開始月日	()月()日
分析終了月日	()月()日
分析方法	
使用した水	

「硝酸イオン」

分析開始月日	()月()日
分析終了月日	()月()日
分析方法	
使用した水	

「硫酸イオン」

分析開始月日	()月()日
分析終了月日	()月()日
分析方法	
使用した水	

図 3-5.1 分析結果報告書確認表示画面

・操作ボタンについて

「前ページ」: 前ページがある場合、前ページに移動します。

「次ページ」: 次ページがある場合、次ページへ移動します。

「ダイレクトジャンプ」: 指定したページ番号に移動します。